

対話的な学びの充実に向けて

現在の学習指導要領では、学校教育において『主体的・対話的で深い学び』の実現を目指すことが求められています。その理由は、次の通りです。

(1) これからの社会で求められる資質・能力を育てるため

…変化が激しく将来予測が難しくなった現代社会の中で、子どもたちには、「自ら課題を発見し、他者と協働しながら解決し、自分の考えを表現し判断する力」や「生涯にわたって能動的に学び続ける力」が求められています。

(2) 学習者が“どう学ぶか”を重視するため

…従来の学習指導要領は「教師が何を教えるか」が中心でしたが、現在は「学習者がどのように学ぶか」に焦点を当てる方向へと転換しています。その結果、興味関心を持つ（主体的）、他者と関わりながら考えを広げ深める（対話的）、思考・判断・表現を働かせて理解を深める（深い学び）といった学びのプロセスが重要視されるようになりました。

(3) 学びの質を高めるため

…対話を通じて思考が活性化し、深い理解へとつながるため、「**対話的な学び**」は学びの質を高める中核にあると考えられています。

そこで、今回は「**対話的な学び**」に関する本校での取組を紹介します。

「対話的な学び」は、自分の気づきや思いを安心して表現したり、間違いや失敗を馬鹿にせず互いに支え合ったりできる学習集団が土台となると考えています。そのため、これまでもお伝えしたように、『自分たちでよりよい学級・学校を創る活動』を通して、人間関係を築き、互いに認め合い、協力し合える集団づくりを重視しています。

その上で学習場面においては、まず、友だちの発言を静かに聞くだけでなく、あいづちや反応を返すことを大切にしています。これにより、話し手が「話してよかった」「伝えることって楽しい」と感じることを増やし、個々の思いを引き出そうとしています。

次に、友だちの考えを自分の考えと比べて聞くことを大切にしています。そのために、活用を始めたのが「**ハンドサイン**」です。比べて聞き、反応を返すことは意思表示になります。「しつもん」サインもあることで、分かりにくいことの意味表示もしやすくなると考えています。子どもがこれまで以上に能動的に学習参加できるとともに、教員にとっても子どもの学びの状況を把握しやすくなる等の効果を期待しています。

3つ目の取組は『**リレー言葉**』です。友だちの発言を自分の考えと比べて聞き、「〇〇さんの意見と(に)……」というふうに、つなげていく発言を、バトンをリレーするイメージで、そう呼んでいます。これにより、単なる意見発表ではなく、発言がつながる話合いになり、考えを深める学習にしやすいります。

あいづちの「あいいうえお」		
ああ!	きょうかん	
いいね	さんせい	
うん?	ききかえし	
えっ!	おどろき	
おお!	かんだう	

比べて聞いてつなげる「ハンドサイン」



リレー言葉	
おな 同じ	〇〇さんと 同じ(賛成)で
ちがう	〇〇さんと (反対で) ちがって
りゆう理由	「 」だと 思います。↓ どうしてかという「 」で。 わたしは 〇〇さんの意見と 同じです(ちがいます)。↓ 理由は「 」です。
ふやす	〇〇さんの 意見に 付け加えると 「 」で。
しつもん質問	〇〇さんに 質問です。 「 」で。 みなさんに 質問が あります。 「 」で。

PTA より図書の寄贈をいただきました。ありがとうございます。～読書環境の充実～

子どもたちにとって一番身近な図書館と言える学校の「図書室」は、「学校図書館」とも呼ばれています。滋賀県教育委員会では、学校図書館を活用した取組の充実を進めています。その一つとして、今年度から滋賀県立図書館内に「こどもとしょかん」サポートセンターが開設されました。同センターでは、市町の教育委員会とも連携を図りながら、学校図書館の活用・活性化の支援をされています。WEBサイト「こども としょかん」ポータルも開設されました。先日、本校にも訪問があり、学校図書館の利用の様子を見ていただいたり、担当者と懇談いただいたりしました。

学校としても、図書ボランティアや読み語りボランティア「マザーグース」の皆様にご支援ご協力いただき、毎週金曜日に勤務している図書館司書と連携したりしながら、さらには委員会活動において子どもたち自身も力を発揮しながら、読書環境の充実に向けて、取組を進めているところです。

今回、PTAより図書を寄贈いただいたことで、子どもが本を手にする機会をさらに増やすことができます。今後も、読書がもつ魅力や価値を子ども自身が感じられるようにしていきたいと考えています。ありがとうございました。

1月22日（水）は、たくさんの保護者様にご参観いただきました。ありがとうございました。